

守山企業景況調査報告書

(第 32 回)

平成 29 年 7 月～平成 29 年 9 月期 実 績

平成 29 年 10 月～平成 29 年 12 月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 29 年 7 月～平成 29 年 9 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 70 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	17	85.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	19	17	89.5%
卸売業	6	5	83.3%
合計	70	62	88.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 29 年 7 月～平成 29 年 9 月、見通しを平成 29 年 10 月～平成 29 年 12 月とし、調査時点は平成 29 年 10 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 29 年 7 月～9 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 29 年 7 月～9 月期の調査結果では、業況が前回調査より数値が上昇し、売上高、採算、資金繰りの 3 指標は低下した。

<業況>

業況 DI は▲6.5 で前回調査の▲9.7 から 3.2 ポイント上昇した。業種別では、小売業 ▲29.4（前回調査比▲12.7）、製造業 16.7（前回調査比+16.7）、建設業 ▲9.1（前回調査比▲27.3）、サービス業 0.0（前回調査比+17.6）、卸売業 0.0（前回調査比+40.0）と製造業、サービス業、卸売業が上昇した。

10 月～12 月期見通しは全体で 0.0 であり、上昇の見込である。

<売上高>

売上高 DI は▲8.1 で前回調査より 3.3 ポイント低下した。業種別では、小売業 ▲23.5（前回調査比▲6.8）、製造業 33.3（前回調査比+8.3）、建設業 ▲9.1（前回調査比▲9.1）、サービス業 ▲17.6（前回調査比▲11.7）、卸売業 ▲20.0（前回調査比+20.0）であり、製造業、卸売業が上昇しその他の業種は低下した。

10 月～12 月期見通しは全体で 3.2 となっており、上昇の見込である。

<採算（経常利益）>

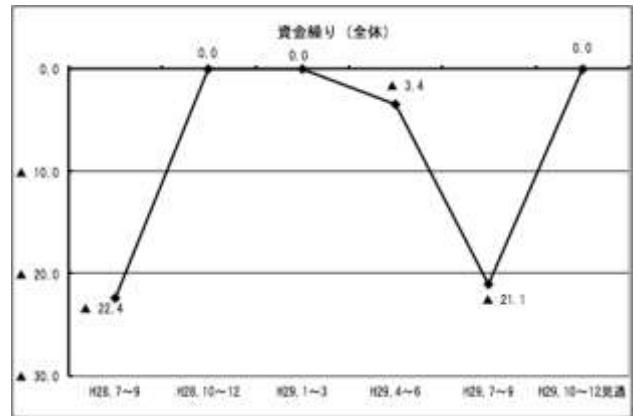
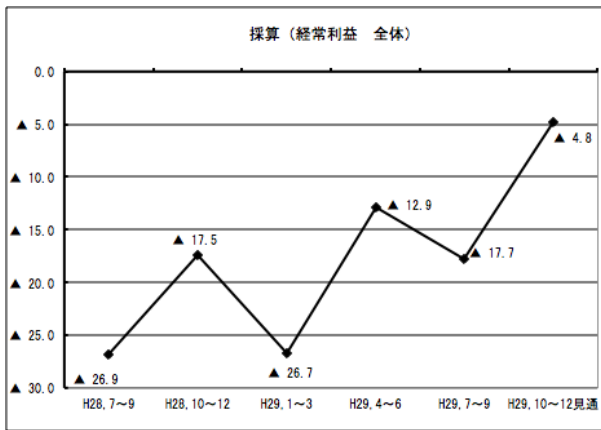
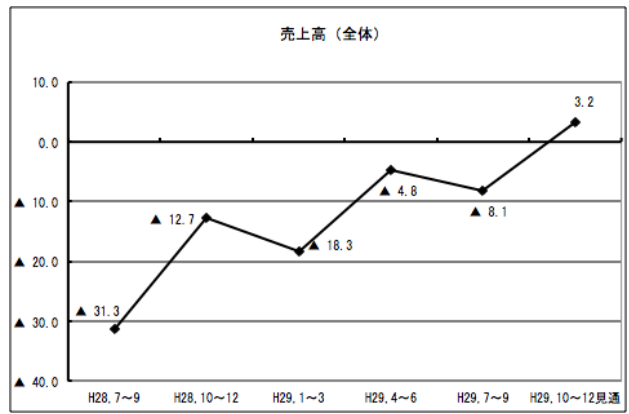
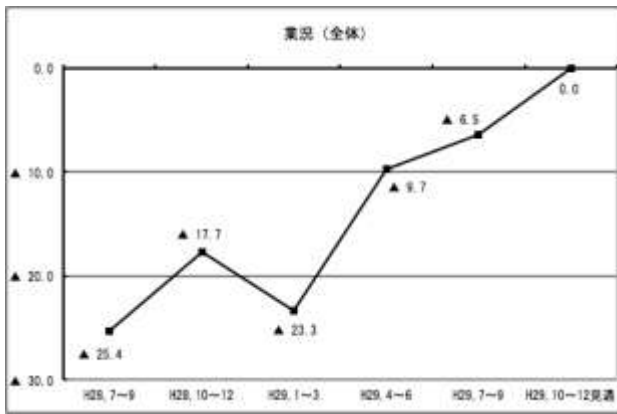
採算（経常利益）DI は▲17.7 で前回調査より 4.8 ポイント低下した。業種別では、小売業 ▲35.3（前回調査比▲18.6）、製造業 8.3（前回調査比+16.6）、建設業 ▲9.1（前回調査比±0.0）、サービス業 ▲29.4（前回調査比▲11.8）、卸売業 0.0（前回調査比±0.0）で製造業が上昇し、建設業、卸売業が横ばい、他の 2 業種は低下した。

10 月～12 月期見通しは全体で▲4.8 であり上昇の見通しである。

<資金繰り>

資金繰り DI は▲21.1 で前回調査から 17.7 ポイント低下した。業種別では小売業 ▲29.4（前回調査比▲18.3）、製造業 0.0（前回調査比▲9.1）、建設業 ▲36.4（前回調査比▲45.5）、サービス業 ▲21.4（前回調査比▲6.0）、卸売業 0.0（前回調査比±0.0）であった。卸売業は横ばい、他の 4 業種は低下した。

10 月～12 月期見通しは全体で 0.0 であり、今回調査実績から上昇している。



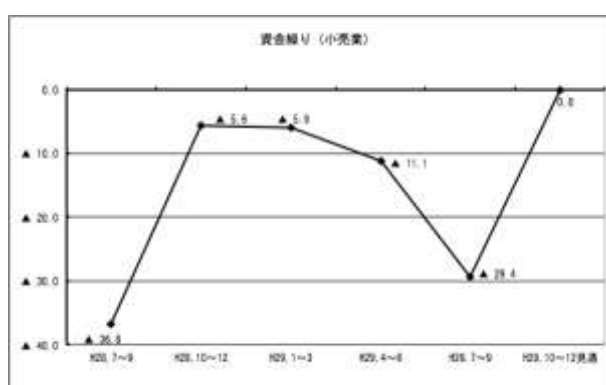
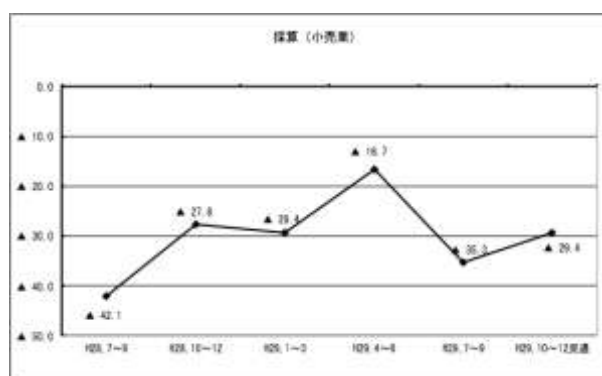
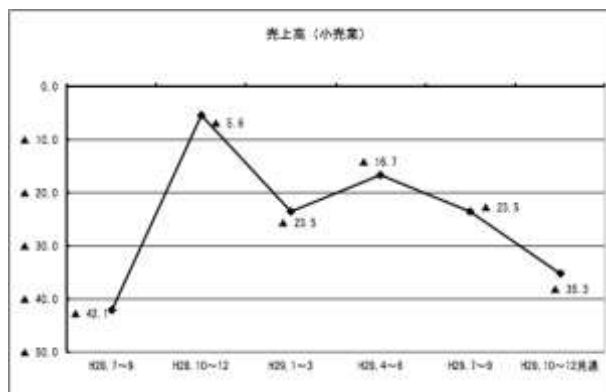
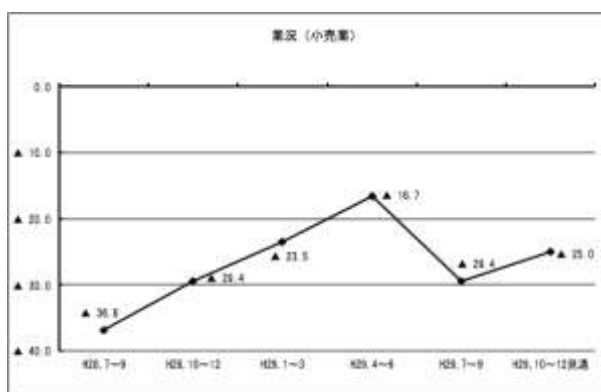
小売業

小売業の業況DIは▲29.4で前回調査より12.7ポイント低下した。3四半期連続の上昇から反転して3四半期前の水準に戻ってしまった。上昇の流れが変わったのか、一時的なものなのかは判断が難しいが、10月～12月期見通しが▲25.0であるので業界としては一時的な変動と見ているようである。

売上高DIは▲23.5で前回調査より6.8ポイント低下した。売上高は上昇と低下を繰り返しており、今回は低下の順になった。低下幅は前回調査で上昇した分と同じであるので足踏みの様に見えるが、1年の期間で見ると低下傾向であることがわかる。10月～12月期見通しは▲35.3で低下傾向を示している。

採算DIは▲35.3で前回調査より18.6ポイント低下した。1年前の平成28年7月～9月期の▲42.1よりは高い値であるが、それに次ぐ低い数値になった。業況、売上高に引きずられるように採算も悪化している。10月～12月期見通しは▲29.4で持ち直しが期待されている。

資金繰りDIは▲29.4で前回調査より18.3ポイント低下した。他の3指標とともに資金繰りでも低下を示しており厳しい結果となった。しかし、10月～12月期見通しは0.0と大きく上昇しており、見通しは明るいようである。



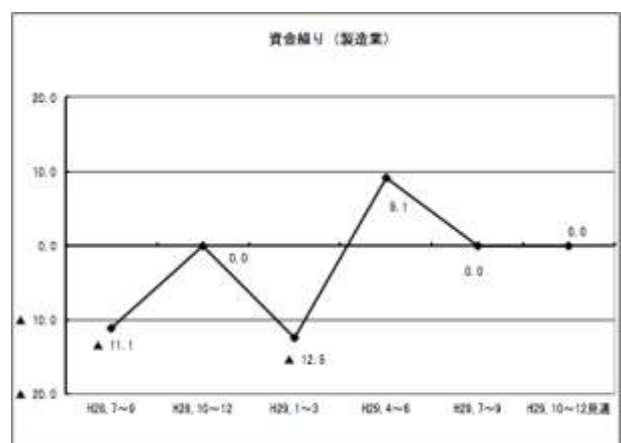
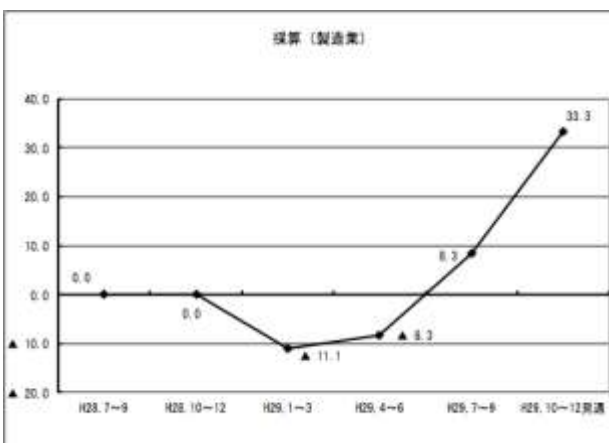
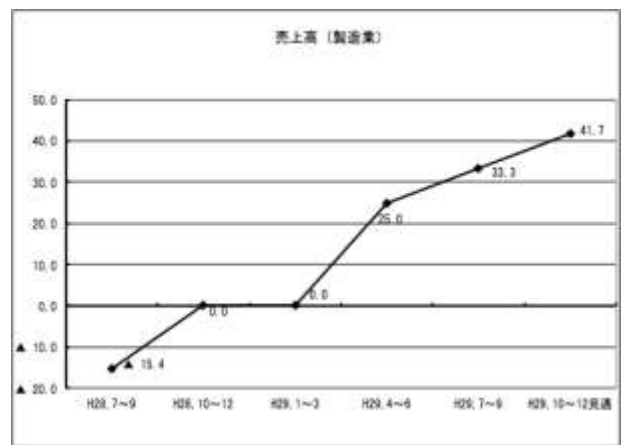
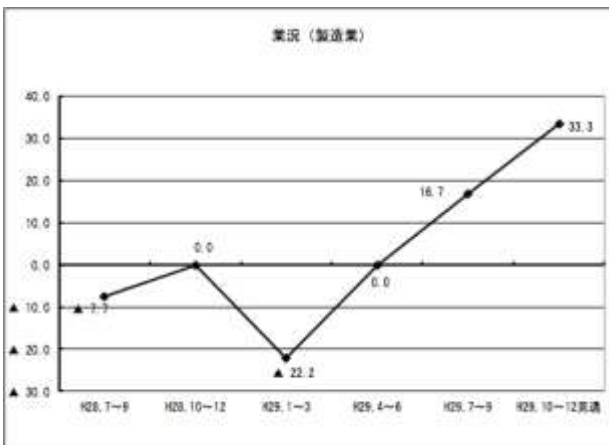
製造業

製造業の業況 DI は 16.7 と前回調査に比べて 16.7 ポイント上昇した。前回、今回と 2 四半期連続で上昇し、業況が明るいことが伺える。これは 10 月～12 月期見通しでも 33.3 とさらに数値が上昇していることから伺える。

売上高 DI は 33.3 で前回調査より 8.3 ポイント上昇した。業況と同じように売上高も順調に推移している。10 月～12 月期見通しでも 41.7 と伸ばしており、明るさが鮮明になっている。

採算 DI は 8.3 で前回調査より 16.6 ポイント上昇した。業況、売上高が好調に推移しているのに合わせて採算も数値が上昇しているようである。10 月～12 月期見通しでも 33.3 と伸びており、順調そのものの様である。

資金繰り DI は 0.0 で前回調査より 9.1 ポイント低下した。低下とは言え、0.0 であるので資金繰りが悪化したということもなさそうである。10 月～12 月期見通しでも 0.0 を維持しており問題はなさそうに思える。



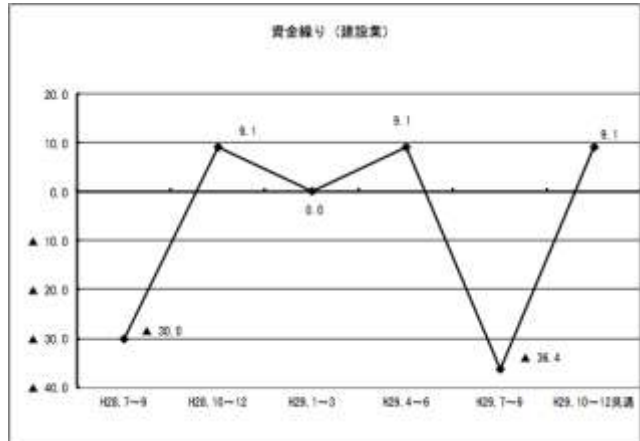
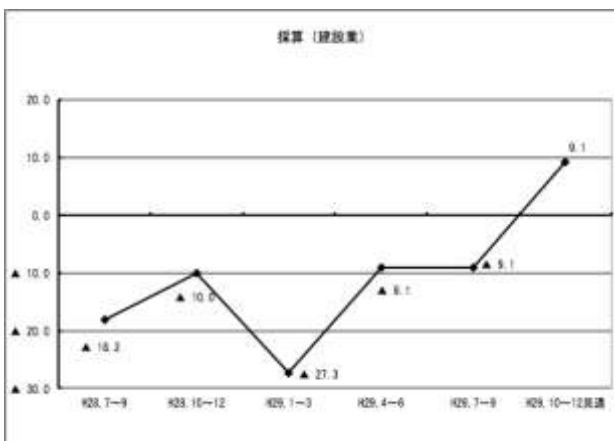
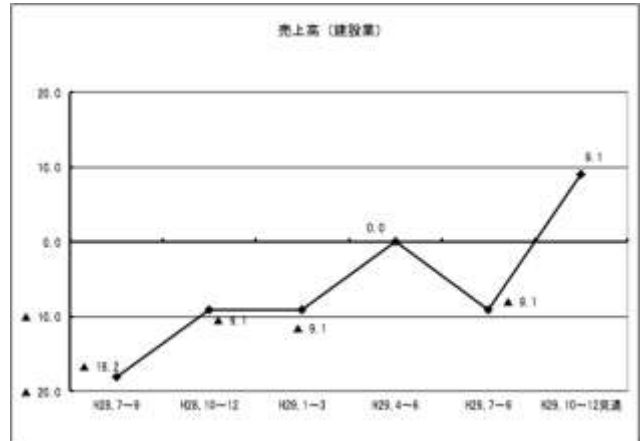
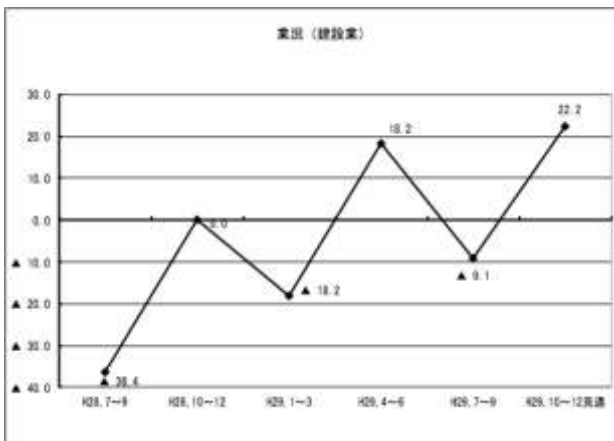
建設業

建設業の業況DIは▲9.1であり前回調査より27.3ポイント低下した。前回調査ではプラスの数値が出たが今回はマイナスになった。しかし、大きめに上下を繰り返しながら上昇の傾向にあるとは言える。10月～12月期見通しでも22.2と大きく上昇が見込まれている。

売上高DIは▲9.1で前回調査より9.1ポイント低下した。過去3回の調査で0.0となったのは前回だけで残りの2回は▲9.1であったことを考えると、大きな変動がなかったとも考えられる。10月～12月期見通しは9.1となっており、この状況からの脱却が期待されている。

採算DIは▲9.1で前回調査と同じであった。一時期に比べると良くなったとは言え、採算は好転していないように見える。しかし、10月～12月期見通しが9.1と好転しており、この先から動きがありそうである。

資金繰りDIは▲36.4で前回調査より45.5ポイント低下した。資金繰りは過去3四半期安定していたが、今回調査では一気に悪化した。しかし10月～12月期見通しは9.1と一気に上昇しており、資金繰りの不安は一気に解消される見通しとなっている。



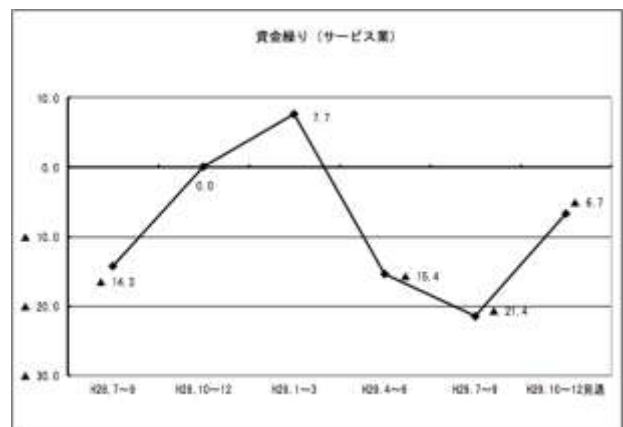
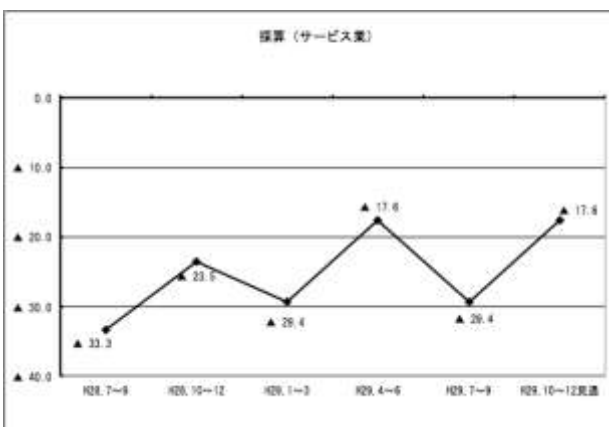
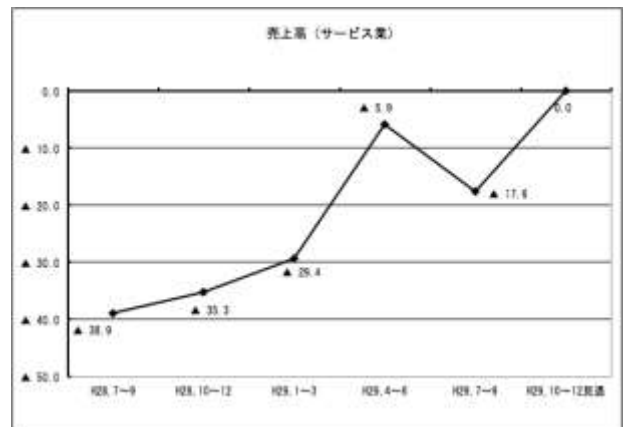
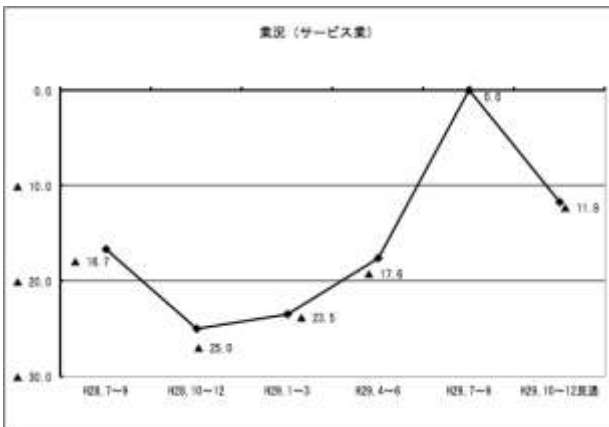
サービス業

サービス業の業況DIは0.0で前回調査より17.6ポイント上昇した。3四半期連続の上昇である。しかも、0.0とマイナスからの脱却も果している。今回調査時点では業況がかなり良くなった様である。しかし、10月～12月期見通しは▲11.8と低下が見込まれている、予断を許さない状況であることは変わらない。

売上高DIは▲17.6で前回調査より11.7ポイント低下した。前回調査までは4四半期連続で上昇していたが、今回調査では低下に転じた。10月～12月期見通しでは0.0となっていることから今回調査の結果は一時的な要因と見られているようである。

採算DIは▲29.4で前回調査より11.8ポイント低下した。前回調査で上昇した分だけ今回調査では低下してしまっている。四半期ごとに上下してはいるが長い目で見れば状況は変わっていない。10月～12月期見通しでは▲17.6で上昇している。がこの数値は前回調査と同じ数値である。

資金繰りDIは▲21.4で前回調査より6.0ポイント低下した。これで2四半期連続の低下である。売上高、採算が伸びないことで資金繰りでも厳しい局面が来ていると考えられる。10月～12月期見通しでは▲6.7と改善の見通しである。



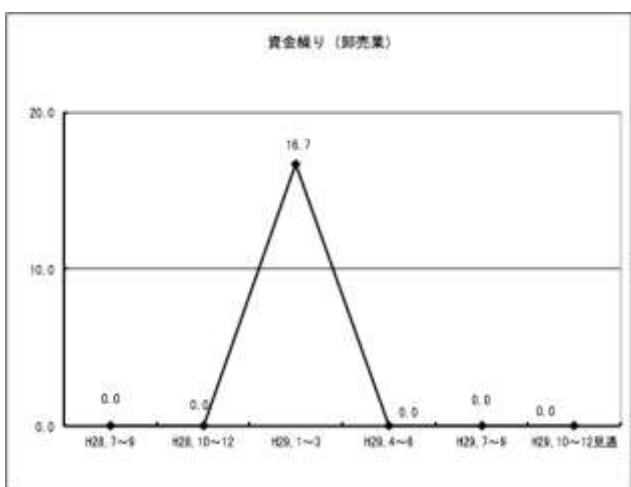
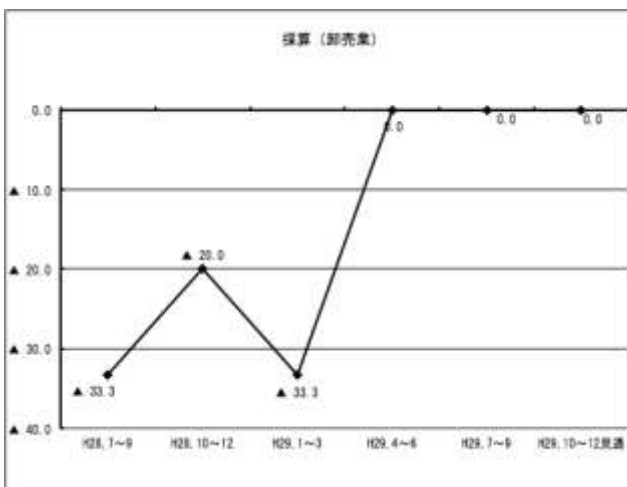
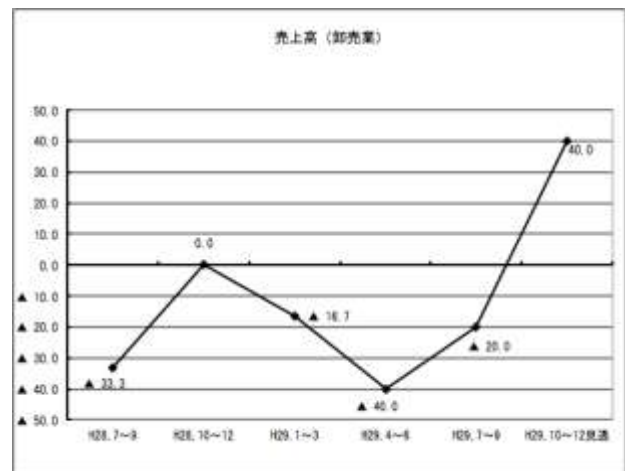
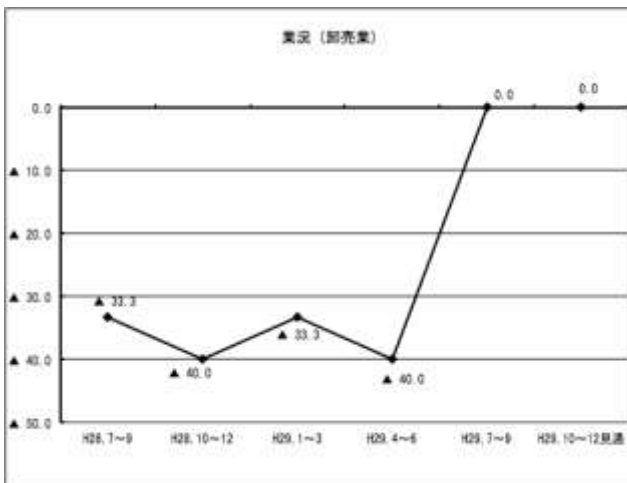
卸売業

卸売業の業況DIは0.0となり前回調査に比べて40.0ポイントの上昇である。過去4四半期は全てマイナスであったので、一気に上昇した。今回調査時点で潮目が変わったかのようである。10月～12月期見通しも0.0であり、このままの調子が続くことが予想されている。

売上高DIは▲20.0で前回調査より20.0ポイント上昇した。業況ほど大きくないが売上高も上昇している。10月～12月期見通しも40.0と大きく上昇しており、上昇期待が大きいことがわかる。

採算DIは0.0で前回調査と同じであった。採算は前回調査時点で潮目が変わったかのようである。10月～12月期見通しも0.0であるのでこの傾向が続くと予想されている。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。10月～12月期見通しも0.0で過去を見ても前回調査の16.7が突出しており、その他は0.0のみである。このことから資金繰りは安定していると考えてもよいと思われる。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し
全 体	▲ 6.5	0.0	▲ 8.1	3.2	▲ 17.7	▲ 4.8
小売業	▲ 29.4	▲ 25.0	▲ 23.5	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 29.4
製造業	16.7	33.3	33.3	41.7	8.3	33.3
建設業	▲ 9.1	22.2	▲ 9.1	9.1	▲ 9.1	9.1
サービス業	0.0	▲ 11.8	▲ 17.6	0.0	▲ 29.4	▲ 17.6
卸売業	0.0	0.0	▲ 20.0	40.0	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し
全 体	19.4	28.3	▲ 20.0	▲ 25.4	▲ 3.4	▲ 3.4
小売業	▲ 17.6	12.5	▲ 26.7	▲ 13.3	▲ 6.7	▲ 13.3
製造業	75.0	58.3	0.0	8.3	8.3	16.7
建設業	9.1	9.1	▲ 18.2	▲ 9.1	9.1	0.0
サービス業	11.8	25.0	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 12.5
卸売業	60.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し	7～9 月期動 向	10～12 月期 見通し
全 体	▲ 21.1	0.0	6.1	4.2	10.6	8.5
小売業	▲ 29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	0.0	0.0	30.0	22.2	30.0	22.2
建設業	▲ 36.4	9.1	0.0	0.0	10.0	10.0
サービス業	▲ 21.4	▲ 6.7	0.0	0.0	7.7	7.7
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

